

平成24年度全国学力・学習状況調査の結果分析

伊達市教育委員会

1 調査結果の概要

(1) 全体的な傾向

小・中学校においては、全体として以下のような特徴がみられた。

○平成24年4月17日（火）に実施した平成24年度全国学力・学習状況調査の北海道における状況は、抽出調査対象校と希望利用方式参加校を合わせ下記のとおりである。

	学校数（校）	児童生徒数（名）
小学校	983	31,794
中学校	576	43,101

伊達市は、星の丘小・中学校を除く、小学校9校283名、中学校4校274名が参加した。稀府小学校、伊達中学校は抽出調査対象校での実施であり、他の11校は希望利用方式参加校での実施である。

○結果について、抽出調査対象校は文部科学省、希望利用方式参加校は北海道教育委員会が分析した。

北海道教育委員会が両データを合算した結果を受けて、伊達市の調査概要をまとめた。

○伊達市の各教科における平均正答率については、次ページ「平成24年度全国学力・学習状況調査の平均正答率グラフ」のとおりである。

※平均正答率（％）＝平均正答数／設問数

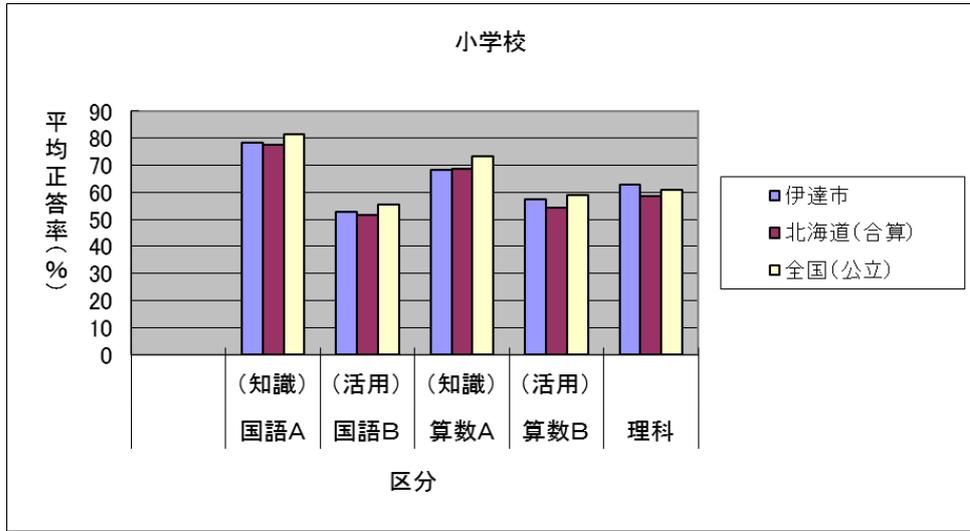
◆《小学校》

国語A・国語B・算数A・算数Bの平均正答率については、全国より低いものの国語A・国語B・算数Bは北海道より高く、算数Aは北海道とほぼ変わらない結果である。理科の平均正答率については、全国、北海道より高い結果である。

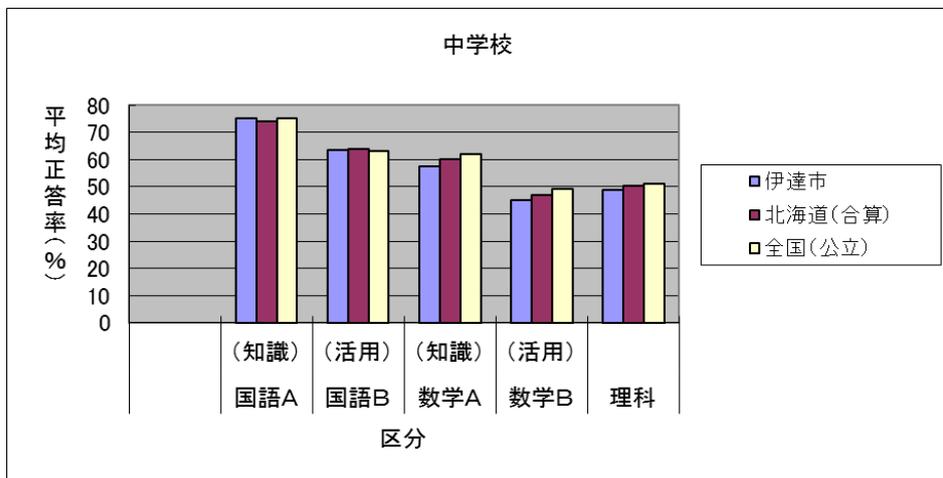
◆《中学校》

国語A・国語Bの平均正答率については、全国、北海道とほぼ変わらない結果であるものの、数学A・数学B・理科の平均正答率については、いずれも全国、北海道より低い結果である。

○平成24年度全国学力・学習状況調査の平均正答率グラフ



小学校	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
	(知識)	(活用)	(知識)	(活用)	
伊達市	78.3	52.9	68.3	57.3	62.9
北海道(合算)	77.4	51.1	68.7	54.3	58.6
全国(公立)	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9



中学校	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
	(知識)	(活用)	(知識)	(活用)	
伊達市	75.2	63.5	57.4	45.2	49.0
北海道(合算)	74.0	63.7	60.0	46.9	50.3
全国(公立)	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0

(2) 教科ごとの傾向

(小学校)

小学校においては、以下のような特徴がみられた。

◆《国語A・知識》

○設問数17に対する伊達市の平均正答数13.3は、北海道の平均正答数13.2より上回っている。

○領域での傾向

「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学習指導要領の領域において、北海道平均正答率より上回っているが、「書くこと」だけは北海道平均正答率より下回っている。

◆《国語B・活用》

○設問数9に対する伊達市の平均正答数は、北海道の平均正答数と同じ5.7である。

○領域での傾向

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の領域において北海道平均正答率より上回っているが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」だけは北海道平均正答率より下回っている。

◆《算数A・知識》

○設問数19に対する伊達市の平均正答数13.0は、北海道の平均正答数13.1とほぼ同様である。

○領域での傾向

「図形」、「数量関係」の領域においては、北海道平均正答率より上回っているものの、「数と計算」、「量と測定」において、北海道平均正答率より下回っている。

◆《算数B・活用》

○設問数13に対する伊達市の平均正答数7.5は、北海道の平均正答数7.2より上回っている。

○領域での傾向

「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の領域において、いずれも北海道平均正答率より上回っている。

◆《理科》

○設問数24に対する伊達市の平均正答数15.1は、北海道の平均正答数14.1、全国の平均正答率14.6より上回っている。

領域での傾向

「物質」、「エネルギー」、「生命」、「地球」のいずれの領域も、北海道と全国

の平均正答率を上回っている。

(中学校)

中学校においては、以下のような特徴がみられた。

◆《国語A・知識》

○設問数32に対する伊達市の平均正答数24.1は、北海道の平均正答率23.7より上回っている。

○領域での傾向

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「言語事項」の学習指導要領の領域においては、北海道平均正答率より上回っているものの、「読むこと」は、北海道平均正答率より下回っている。

◆《国語B・活用》

○設問数9に対する伊達市の平均正答数は、北海道の平均正答数5.7と同じである。

○領域での傾向

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の全てにおいて、北海道平均正答率より下回っている。

◆《数学A・知識》

○設問数36に対する伊達市の平均正答数20.7は、北海道の平均正答数21.7より下回っている。

○領域での傾向

「数と式」、「図形」、「数量関係」の領域において、いずれも北海道平均正答率より下回っている。

◆《数学B・活用》

○設問数15に対する伊達市の平均正答数6.8は、北海道の平均正答数7.0より下回っている。

○領域での傾向

「数と式」、「図形」、「数量関係」の領域において、全て北海道平均正答率より下回っている。

◆《理科》

○設問数26に対する伊達市の平均正答数12.8は、北海道の平均正答数13.1より下回っている。

○領域での傾向

「物質的領域」の領域において、北海道の平均正答率をやや上回っているが、「化学的領域」、「生物的領域」、「地学的領域」のいずれも北海道平均正答率より

下回っている。

2 分析・検証

(小学校)

結果を踏まえて、現段階では小学校において、以下のような取り組みが求められる。

◆《全体として》

○各教科の設問や領域ごとの下位の平均正答率や無解答の問題に着目し、各学校の現状を踏まえ、子どもの発達の段階や指導内容の系統性も踏まえた上で、当該学年の指導はもとより、基礎となる低学年の指導や学習が積み重なる高学年での指導を意図的・計画的に行うことが必要である。

○各問題を分析・検証の上、その結果から読み取れる課題に焦点を当て、学習指導の改善や充実につながるよう指導の在り方を工夫する必要がある。

◆《国語》

○課題

- ・グラフや表に含まれる情報を正確に読み取った上で話したり書いたりすること。
- ・話したり聞いたり、書いたり、読んだりする目的や意図に応じ、複数の情報を関係付けた上で条件に合わせながら自分の考えをまとめて記述すること。

○指導改善のポイント

- ・「話すこと・聞くこと」：目的や意図に応じて資料を的確に読み取ったり、ねらいを明確にしたりしながら適切に質問する指導の充実。
- ・「書くこと」：目的や意図に応じて必要となる事柄を整理して簡潔に書いたり、伝えようとする内容の中心を明確にして書いたりする指導の充実。
- ・「読むこと」：目的や意図に応じて複数の情報を結び付けたり編集者の意図を推論しながら、自分の考えをまとめる指導の充実。

◆《算数》

○課題

- ・算数の用語を用いて事象の関係を理解したり、適切に表現したりすること。
- ・方法や理由を言葉や数を用いて記述する際、場面や状況、問題の条件に基づいて、必要な事柄を過不足なく記述すること。

○指導改善のポイント

- ・「数と計算」：数量の関係を図に表したり図から数量の関係を読み取ったりする指導の充実。

観察や計算から得られる事実を根拠として、自分の考えを説明したり記述したりする指導の充実。

- ・「量と測定」：面積についての感覚を豊かにする指導の重視。
図形の性質をもとに筋道を立てて面積の関係を考える指導の充実。
- ・「図形」：空間についての感覚を豊かにする指導の重視。
身の回りの事象から図形を見だし、図形の性質をもとに考察する指導の充実。

- ・「数量関係」：百分率の意味や割合の考えの良さを理解できるようにする指導重視。

◆《理科》

○課題

- ・観察・実践の結果を整理し考察すること。
- ・科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりすること。

○指導改善のポイント

- ・「物質」：観察・実験の結果をもとに自分の考えを見直し改善する指導の充実。
- ・「エネルギー」：観察結果を分析して、全体の傾向や共通性を捉えて考察する指導の充実。

新たな場面において、条件を制御しながら実験を構想する指導の充実。

水の状態変化を「エネルギーの見方」として考察する指導の充実。

- ・「生命」：観察・実験の結果をもとに見直し改善する指導の充実。
 - ・「地球」：方位磁石を目的に応じて操作する充実。
- 天気の変化に興味・関心を持ち、気象情報を分析する指導の充実。

(中学校)

結果を踏まえて、現段階では中学校において、以下のような取組が求められる。

◆《全体として》

○小学校と同様、各教科の設問や領域ごとの下位の平均正答率や無解答の問題に着目し、各学校の現状を踏まえ、子どもの発達の段階や指導内容の系統性も踏まえた上で、当該学年の指導はもとより、基礎となる低学年の指導や学習が積み重なる高学年での指導を意図的・計画的に行うことが必要である。

○各問題を分析・検証の上、その結果から読み取れる課題に焦点を当て、学習指導の改善や充実につながるよう指導の在り方を工夫する必要がある、特に、数学において指導の充実が求められる。

◆《国語》

○課題

- ・具体的な言語活動の中で、基礎的・基本的な知識・技能を適切に使うこと。
- ・表現した内容を客観的に見直して、よりよくすること。

○指導改善のポイント

- ・「話すこと・聞くこと」：自分の考えを明確に話したり、話の内容を的確に聴き取ったりする指導の充実。
- ・「書くこと」：着目した内容を明確にした上で自分の考えを具体的に書く指導の工夫。
- ・「読むこと」：目的に応じて必要な情報を読み取る指導の工夫。
文学的な文章の内容を捉える指導の工夫。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」：表現の技法について理解したことを各領域の指導に生かす工夫。

言語への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の工夫。

◆《数学》

○課題

- ・ 数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりすること。
- ・ 扇形の面積や多角形の内角の和、正多角形の外角の性質など、図形の内容を関数の視点から動的な関係として捉えること。

○指導改善のポイント

- ・ 「数と式」：方程式の解の適否を調べる指導の重視。
事柄が成り立つ理由を、数学的な表現を用いて的確に説明する指導の充実。
- ・ 「図形」：平面図形の性質などを操作して確かめる指導の重視。
図形の性質などを用いて問題解決の方法を数学的に説明する指導の充実。
- ・ 「関数」：具体的な事象における2つの数量の関係を変化や対応から捉える指導の重視。
数学的な事象を関数の視点から考察する指導の重視。
- ・ 「資料の活用」：起こり得る場合を正しく数え上げ、確率を求める指導の重視。
資料の特徴を的確に捉えて判断し、その根拠を説明する指導の充実。

◆《理科》

○課題

- ・ 観察・実験などにおいて、定量的な取扱いをすること。
- ・ 日常生活や社会の特定の場面において、理科に関する基礎的・基本的な知識や技能を活用すること。
- ・ 基礎的・基本的な知識や技能を活用して、観察・実験などの結果を分析し解釈したり、仮説を検証するための観察・実験を計画すること。
- ・ 基礎的・基本的な知識や技能を活用した根拠をもとに、他者の計画や考察を検討し改善すること。

○指導改善のポイント

- ・ 「物質的領域」：探究的な考察・実験を通して、電流と電圧の関係及び電流の動きについて理解を深める指導の充実。
- ・ 「化学的領域」：水に物質を溶かす実験を通して、溶解度と質量パーセント濃度の理解を深める指導の充実。
- ・ 「生物学的領域」：身近な生物の継続的な観察や飼育・栽培を通して、生物の体のつくり働きを関連付けて理解を深める指導の充実。
- ・ 「地学的領域」：野外観察などを行い、時間概念や空間概念を形成する指導充実。

3 今後の取り組み

今後、以下のような取り組みを取り進める。

○教育委員会

- ①各学校に対して、改善に向けた具体的な取り組みを展開するよう指導
- ②市民へのホームページ等による結果公表
- ③各学校への「学力・学習改善プラン」の策定について説明
- ④各学校の「学力・学習改善プラン」の成果や課題について検証
- ⑤平成25年度全国学力・学習状況調査の準備（4月）
- ⑥伊達市独自の学力テストの実施（基準日12月1日）

○学校

- ①学校における分析・検証
- ②保護者・地域への結果公表
- ③学校における改善方策を検討
- ④学校における「学力・学習改善プラン」の策定
- ⑤学校における「学力・学習改善プラン」の具体的取り組み・実践
- ⑥「学力・学習改善プラン」の教育委員会への提出（4月）
- ⑦平成25年度全国学力・学習状況調査の実施（4月24日（水））
- ⑧伊達市学力テストの実施（12月2日（月））